

# 会 議 報 告 書

主催者名	匹見総合支所住民福祉課
会 議 名	平成 27 年度 第 4 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 28 年 1 月 6 日（水） 13 時 30 分～
開催場所	益田市匹見総合支所 大会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 匹見地域協議会委員（9 名）</li><li>・ 市長</li><li>・ 匹見総合支所：長谷川支所長 住民福祉課：靱田課長、事務局 地域づくり推進課：村上課長 建設課：露口課長</li><li>・ 久保議員</li></ul>

## 【会長あいさつ】

## 【協議事項】

### (1) 国道 488 号車両通行止区間の整備方針に対する意見書（案）について

#### <資料 1 建設課長より説明>

○前回の協議会では概ねルート変更の検討に入るということで一致し、関係者、地元住民の意見に沿うように慎重に、益田市としての意見をまとめるということになっていた。

○関係住民ということで旧広見地区集落の住民に意見聴取した。現在も何らかの形で定期的な広見地区に行かれており、現道の形態、国道、市道、林道にはこだわらないが最低限安全対策した上で通行止め箇所を開放を求めている。

○国道が振替わる方の自治会として三笹自治会に意見聴取した。吉賀匹見線の改良にスピードアップが期待できるということで早期の路線振り替えをしてほしいということだった。

○現在の国道沿線の自治会として匹見中央連合自治会に意見聴取した。振替を前提に今後進めていくことはやむを得ないだろうが、現道のレストパークまでの箇所は県の責任において改良をしてほしい。広見地区についても防災対策を講じて頂きたい。改めて島根県から住民に対し情報提供の機会を持ち、合意形成を図ってほしいということだった。

○益田市の意見としては、現状を踏まえると島根県の方針の通り三坂八郎線に振替えることはやむをえない。振替に当たっては地元の要望を十分に踏まえ、島根県においては先の事を十分に考慮して事業を推進していくことを求めるという内容。

#### 《質疑・意見》

●広見地区住民 3 名に聴取したということだが、3 名しか返事がなかったのか、3 名にしか聞かなかつ

たのか？

▷ 広見地区出身の住民に聞き、広見によく通われている方3名に意見を頂戴した。

●意見聴取に参加された自治会の方から、振替えをするための要望や手順について詳しい説明がほしいという声を聞いた。その中身の協議が進んでいない中で、匹見中央連合自治会の意見聴取の際、どのような意見が出たのか、支所はどう答えられたか？

●まずは島根県の方から正式に地域協議会なり地域に説明をするべき。現状の進め方は順序が間違っているのでは？

▷ 自治会への聴取の際に、詳しい内容が決まってない状況の中で意見を求められても困るという批判もあった。住民が一番懸念されていることは現道の488号の沿線が今後どうなるか、具体的な見通しが全く立っておらず、島根県から具体的な方針を住民に伝えて頂きたいという意見があった。県としては年度末までには方針を決定していきたいという事があり、益田市としての意見をあげていかなければならず、それに向けて緊急に意見聴取をおこなったという経過である。

## (2) 匹見地域活性化基金計画(案)について <資料2 住民福祉課長より説明>

○前回地域協議会で説明した5月末現在の計画から数字が変わったり新たに加わったものについて事業名に網かけで示している。

○温泉基金については当初5,000万円基金を積んでいるが今回新たに2,000万円基金を充当したい。

○地域資源型雇用創出事業の事業費として27年度28年度250万円ずつ充当する。

○児童福祉対策事業費、斎場使用補助金については今まで一般財源で対応していたが、匹見地域の特色あるソフトという事で基金を充当する計画を立てた。要綱が廃止になればそれ以降は無くなる。

《質疑・意見》

●わさび生産振興事業について、色んな形で振興事業をおこなっていると思うが、毎年実績を出し検証することをしては？

▷ 把握可能な分については報告出来るようにしたい。基本的には、既存の生産農家、新規就農者の生産量と農産加工場への出荷量は把握出来るが、それ以外の所の把握が難しい。それも含めて改めて報告したい。

●リースハウス事業についての進捗状況を聞かせてほしい。U I ターンの若い就農者のためになるべく早く事業を進めて欲しい。

▷ 計画期間を3カ年とし、匹見地域に概ね10棟ずつ30棟のハウスを整備する予定。このうち5棟を研修棟、25棟についてを生産農家が借入し生産をおこなっていく施設とする。リース負担金については年間10万円ぐらいで収まるようにという要望もあり、具体化するため予算の組み立てをしておる段階。

●リースハウス事業を入れる段階で、生産農家や新規就農者等と行政、JA等がしっかりと連携し情報を共有し意見交換をした上で事業展開する必要があるのでは？

▷ 今後の事業については国の事業が大きく展開が変わってきている事もあり、そのあたりは行政としていち早く情報をキャッチし、生産組合、行政、農協の事務局と整理をして今後対応していきたい。

## 【市長との意見交換会】

市長のあいさつ後、意見交換会

○平成27年の大きな仕事としては、益田市人口ビジョンと総合戦略の策定があった。27年度から31年

- 度までの5年間の取り組みという事で、28年が本格的に取り組んでいく最初の年になる。匹見地域においては人口減少や少子高齢化が進行しており、特に中山間地域を中心にその維持を図っていききたい。
- 国勢調査の速報値が発表され、これまで5万人の大台を維持していた人口が今回調査時点で47701人となった。厳しい数字だが、前回の5年間より今回の5年間の方が社会減が縮小したことなど明るい兆しもある。U I ターンの促進や地域の産業、雇用を広げていくことによって政策でカバー出来る余地がある部分で、これは行政だけでなく民間の方々も含めた努力が一定程度功を奏していると考ええる。
  - 森の宝山直市場もオープンし、匹見の大きな財産である木材資源を活用して地域内に材を循環させる仕組みづくりや地域おこし協力隊として若いI ターン者の確保も進めたいと思っている。

#### 《質疑・意見》

- 東京便2便化が継続され地域で活用しなければならないが、高齢化の中乗り手が無いというのが実情であり、企業誘致をして企業に利用してもらうのが一番よいことだと思う。東京便2便化の継続や人口減少する中社会減が少なかった事は、市長を先頭に頑張った成果であると思う。国は地方創生を地方に呼びかけているが、そのへんのところの地方創生はどういうことを益田市としては計画しているのか、方向性などあれば聞かせてほしい。
  - ▷ 東京便2便化は直接利用される方にとっての恩恵もあるが、利用されない方にとっても地域の観光であったり、企業誘致の上で活動の基盤となる首都圏との交通網を確保するという上では非常に大事。今回の2便継続は羽田空港の発着枠が広がったうちの3枠の政策枠として充てるという国交省の政策によるもので地方創生とか総合戦略とは別のところであるが、地方に対しテコ入れをしようとするものであり同じ考え方からきていると思う。国交省にも政策コンテストの継続を訴え、地元としてはしっかりと利用拡大を図っていくことを態度と数字で示していきたいと思っている。
- 新年のあいさつで「今後5年間の総合的な人口減少対策となる総合戦略においては、産業連携の促進、道の駅整備」とあるが、道の駅の整備の予定があるのか？
  - ▷ 山陰道の三隅益田道路の整備が進んできており、数年後に開通すれば特に東からの道路環境が変わるため、益田市の中心部に道の駅を開設していこうという考え。今年は概略調査という手続きを進めており、28年度から基本構想の策定、29年度からは基本計画の策定というふうに少しずつ考えを具体化していく。整備する場所を決めるにあたっては、行政内部だけで決めず、有識者に複数集まってもらいオープンな場で討議して頂く。

従来道の駅は駐車して休憩する機能や道路情報、観光情報の発信拠点の機能がベースであったが、今は特産品を直売するような機能や災害が起こった時の避難所になるような機能等、色んな機能が付随して地域おこしの核になっている。近辺の優良事例を参考に採算が取れる道の駅になるよう進めていきたいと思っている。
- 子育て支援について、近隣の自治体は保育料無料化や医療費の関係など色々対策を講じている。益田市としてどういった子育て支援策を打ち出してアピールできるかが大事であると思うが、市長の考えとして今後どのような取り組みをしていくかという事があればお聞きしたい。
  - ▷ 自然減を図るためにも子育て支援策の充実は重要な課題だと思っている。一昨年から児童医療費助成制度をおこなっており、今回総合戦略の策定の中でも保育料の軽減を打ち出している。これは県の総合戦略での取り組みと連携しておこなうことにしている。県は第1子第2子の保育料を軽減されるということで、市としては今度は第3子の保育料を、これまで半額としていたが更に思いきって無料化しようと考えておるところである。こういう形で少しずつ子育て支援の拡充をしているところであるが、もう一つ大事な事はそれをするためには財源が必要になってくるということである。

もう一方は子育ての環境として益田市は魅力があることも伝えていきたい。益田市内の保育園が切磋琢磨して魅力的な保育環境を作って頂いている。民間の努力と連携しながら、子育てしやすい益田市であることを強くアピールしていく。

- 第3子の無料化は、3人同時に保育所に入所していた場合か？
  - ▷ 今県でも第1子第2子の定義を考えているところ。県の動きと財源を見ながら具体的に設定したい。
- 市長の個人的な意見として、匹見にどういう感じを持っておられるか？今後の方向性は持っておられるか？
  - ▷ 中山間地域ということであつたり雪が多かつたり、そういう意味では生活する上での利便性でいうと厳しい面があると思うが、都会の住民の中には自然に囲まれた生活に憧れを持ちそこで一生を過ごしたいという思いを持った人も増えているのも事実だと思う。Iターン者に対して民間の方々に非常にサポートして頂いており、行政もしっかりと対応したい。便利な生活をするため特に道路の改良、グリーンライン90がまだ残っているし、488号線の未改良の部分についてもしっかりと県に要望して行って利便性を確保することを努力したい。
- 企業誘致のため企業まわりをされているが、昨年どれくらいの誘致をしたのか？
  - ▷ 企業誘致の実績としては県の立地認定の件数でいうと2件だったと思う。引き続き努力していく。
- 市として自伐型林業ということで進められており、非常に良いことだと思う。木の駅も稼働し、匹見の山を活かすため地域住民も本気で取り組んでいかないといけませんが、現状PR不足なのは。市をあげてもう少しPRして頂き、木の駅の活用、自伐型林業を進めて行ってほしい。
  - ▷ 木の駅については、告知をして少しずつ木も集まっておると聞いているが、更に周知出来るように努力したいと思う。
- Iターン者への支援について、市長や支所の職員とUIターン者が年に1,2回は膝を突き合わせて話す機会を持つてはどうか？財政的に厳しいのであれば精神的な支援をおこなって頂きたい。
  - ▷ Iターン者への支援については、心的な支援というのはコストもかからないので引き続きおこなっていききたい。
- 行政財産の遊休施設の維持管理に市が大変苦慮しており、施設管理については少し整理をしていかないといけないと聞いた。耐震の問題もあり簡単に置いておけず、壊したり使用不可とするという話もある。しかし危険だからと統一的な対応をすると、地域内での遊び場や地域振興の場が無くなる場合があるのでは？必要かどうか地域内で充分協議して、その上で行政としては検討して行ってほしい。そのあたりの市長の考えを伺いたい。
  - ▷ 平成28年度中に公共施設総合管理計画を立てることにしている。現在の市有施設の維持費を考えると今の財源では厳しい。具体的には市内にアンケートを配布し、住民の皆さんの施設についての率直な考えをあらかじめ掴んだ上で管理計画を作っていくことにしている。施設の総量そのものは抑制していかないといけないが、例えば利用率そのものは低くても、その地域に無くなってしまつては途端に不便になるというものは、その必要性をみていかないといけない。そうした上で管理計画を作り計画的に管理していきたい。